

羊水

地球上で一番最初に海から生物が誕生した。その時の海水の成分と羊水の成分はほぼ一緒である。海=母。

太古の昔、海水からコアセルベートという一つの塊が出来た。分析すると六価クロームから砒素に至るまで猛毒も含め地球を構成する元素が全て含まれている。それが細胞となる。つまり、結局我々の細胞一つ一つが生きた衛星ではないか。星だから我々は命令なしに太陽系の運行リズムを知っている。

身体の生体リズム

1秒1回の心拍・歩行・咀嚼リズム

4拍に1回の呼吸リズム

1分1循の血流

1分1回のエネルギー代謝

23時～4時の成長ホルモン

1日1回の排便、覚醒と睡眠

1週1回の休息日

1月1回の月経

生命=不断の動き

- ・ 38億年(?)の生物進化、分化の過程。
- ・ 系統発生で人類は立つ、歩くことによって人類になった。
- ・ 個体発生では立つ、歩くことによって大人になる。
- ・ この変化の中で人は最も生理的であり、自然治癒力も発揮される。

歩行

- ・ 生物進化・分化の過程を1年で行う。
- ・ 股関節一体重負荷によって徐々に形成される。いきなり立たせるのではなく仰向け、うつ伏せ、座位、四つ這い、膝立ち、伝い歩きを経験した方が良い。
- ・ 骨盤が重要。

骨盤

直立二足歩行に適した
人間の関節の中の「最高傑作」

- ・ 大腿骨頸体角との角度が直角になる。→ 重力定量器: 正三角形。



なめらかな重心移動と回旋運動が可能となる。

この形でないと直立位が保持出来ない!

形態的シナプス

神経接合部:ある情報のある所から別の所へ伝える。

骨接合部:骨では接地して離れて、接地して離れて力を伝える。構造上同じ形をしている。

骨ピエゾ効果

骨基質は格子状構造にカルシウムがくっついて出来たもの。(鉄筋とコンクリートの関係)足が接地して骨に圧が掛かると電気的变化が起こり、電子が飛び出してマイナス電荷になる。すると二価のフラスイオンであるカルシウムがくっつく。良く歩くとカルシウムが蓄積し骨が形成される。

頭蓋骨(と脳)

- ・脳と頭蓋骨は同時に成長する。
- ・脳が成長しながら頭蓋骨も肥厚しながら成長する。
- ・頭蓋骨は上から見て右回りで広がっていく。骨は2層の竹籠様になっていて広がる時間差で内容と外容が同時に成長できる。

頭蓋骨(と脳)

- ・骨芽細胞は重力負荷で活性化し骨形成が促される。
- ・内容が流体に近い4kgの頭蓋骨が頸椎に乗って生理的に潤滑している。
- ・重力負荷(座位・立位)による圧力と哺乳・咀嚼時の部分的応力が頭蓋骨に伝わり、骨成長を促している。

頭蓋骨(と脳)

猿回しの猿は、立って歩けないうちは調教しても覚えぬ。二足歩行が上手になると、性格的に安定し覚えも良くなる。



立位で重力が脳を刺激し、脳の発達を促す。

頭蓋骨の変容

視覚情報

二次元的には目線の二乗倍
三次元的にはそのまた二乗倍

口(口腔円錐)

イヌ:90度水平
チンパンジー:50度傾斜
ヒト:90度下向き
立つことでヒトの顔面頭蓋骨
は脳の前頭葉・前頭前野・後頭
葉が形成され、人らしくなった。

循環

循環器といえ狭義には心臓・動
静脈であるが、広義には栄養・呼
吸・排泄という3つの機能を効率良
く結び付けるものとして循環器系
がある。本来人間には3つ心臓があ
ると考えられる。①心臓②横隔膜
③筋肉である。

循環

肝臓は関所の入口、腎臓は関所の
出口であり我々の身体を守ってい
る。(肝腎要)または(肝心要)
静脈は拍動しないので圧がかから
ない。必然的にうっ血する。この2
つの門静脈に圧を掛けるために横
隔膜と腹筋を使う。

循環

肺から酸素を、消化器(肝臓)から
栄養を、筋肉から窒素代謝産物と
二酸化炭素を、心臓を経由して全
身に送っている。横隔膜と腹筋は
腹腔全体を1つの巨大な心臓とし
てスポンジのようにギュッと絞り出
す拍動運動に例えられる。

呼吸と循環は仲間のよう
に例えられるが、
実は双子の関係に近い。

呼吸のリズム

古生代の脊椎動物の上陸の物語。波打ち際は波が押し寄せ波を被り、引いていく。海水と空気の状態がリズムカルに交代するが、我々は波が引いた時息を吸い、被った時ぶくぶくと息を吐く。波の寄せては返すリズムと呼吸のリズムは関係があるだろう。波のリズムは北洋も南洋も変わらず、10億年前と今も変わらない。波のリズムは、等しく太陽系のリズムでもある。血潮：胎児が聞く母の血流音と波打ち際の音は殆ど一緒。

循環

- ・心臓：左に寄っているのではなく左に傾いている。重心は正中線上にある。
- ・血管の総長は10万Km。心臓の拍動だけでは循環出来ない。
- ・ハート型：「形状特性ポンプ」上広下狭。血液を送り出しやすい形状。
- ・筋肉：皆同じ方向を向いた形状特性ポンプ。上方が広い。2,3,4頭筋。

循環(大筋は・・・)

- ・血管への液体の出入りは物理的には「動き」で起こる。筋が収縮した時貯留し、伸長された時放出する。
- ・手足のむくみ：寝て安静をとると還流しづらい。動く、歩く方が心臓に負担がかからない。(アキレス腱ポンプ)
- ・腹部静脈：弁が無い。横隔膜のしっかりした上下運動でポンプ作用が働く。

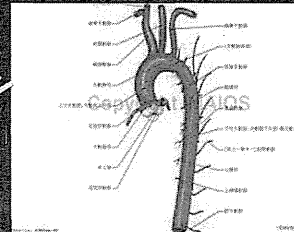
脳循環(無波動循環)

脳は通常でも血流量の20%を使う。考え事、悩み事で50%になる。脳には動脈の拍動が無い？固く閉ざされた頭蓋骨の中を血液が流れ、この時拍動が起こると弱い組織である脳は潰れてしまう。脳は少しの圧力変化でも機能不全に陥る。開頭手術をすると拍動が見られる。

密閉容器に物を流す重要な方法に無波動循環があり、これはサイフォンを使った方法しかない。無波動なので拍動もなく、圧変化も起こらない。頭痛の時頭がスッキンスッキンするのは無波動循環が乱れている時。進入路は内頸動脈・椎骨動脈、流出路は上矢状静脈洞・S状静脈洞。サイフォンは力学的に滑車であり、直立した時に最もサイフォンを上手く使える。寝ている時は圧変化を使えないので波動循環が優位になる。

大動脈弓

これもサイフォンであり1回の収縮で送り出された血液は大動脈を通ると同時にサイフォンが機能する仕組みになっている。空になった左心室に自動的に血液が入り、繰り返される。(自励倍振)



消化・吸収

- ・下顎骨と舌骨は同じ形状で動きを投影している。
- ・舌骨と第3頸椎も相似形をなし、同一水平面上にある。
- ・顎関節はハサミのように頭蓋骨と下顎骨が同時に動く協調関節で、頸椎カーブの頂点に第3頸椎がある。
- ・頸椎の変形が下顎骨の偏移や運動障害の原因となり、全体に波及する。

消化・吸収と免疫

- ・大腸は体内最大の免疫機構であり、人体で60兆の細胞が存在するが大腸には120兆の腸内細菌が生息する。
- ・舌、口腔の管理により脳への適切な刺激を与え、顎関節の正常な形態と運動の維持を図る事で消化管の機能が改善し、免疫機能も向上する。

腹臥位の発達

↓
抗重力伸展活動

- ・ 直立位を目指す
重心を狭く、高く
- ・ 移動機能に結びつく
ずい這い、四つ這い、
伝い歩き、歩行、

健康維持のための 腹臥位の重要性

- ・股関節の形成 ・下肢と骨盤との連結
- ・脊柱側弯の予防
- ・気道狭窄予防と呼吸運動維持
- ・頸椎過伸展と咬合不全の予防
- ・誤嚥、流入予防 ・口腔内衛生
- ・消化管機能維持と免疫機能維持

屋台プログラム②

9:55～10:40

第1会場（ホール） ヘルパー部会	第1会場（ホール） 看護部会	第2会場（100会議室） 医師部会	第3会場（109会議室） リハ部会
暮らすために ～居宅介護（ホームヘルプ） の実際～ （李国本修慈）	訪問看護の仕組み （梶原厚子）	看取りと痛みの緩和 （前田浩利）	重症児の認知、遊び、コミュニ ケーション （岸本光夫）

暮らすために

小児在宅支援に関わる多職種合同セミナー
11月16日(土)・17日(日) 国際ファッションセンター
* 国本 倫子

誰もがみんながご機嫌に暮らせるように

みんな(誰もが)ご機嫌に暮らせればいいですね。
「暮らすために」と言った(聞いた)際、みなさんは、どんなイメージを持たれるのでしょうか?
「彼女・彼らが暮らすために私たちが…」ということも、どうなのかも知れませんが…
やっぱり、私たちは、彼女・彼らが「むくぐく」と暮らそう(生きよう)としていることをもっともって感じながら、そんなことを考えていきたいものです…



暮らすってどういうことですか

入院生活 在宅生活 ほんとの暮らしって??
入所生活 地域生活 望む暮らしは?

単に病室を自宅に移すということではなく
生き生きと育ち生きる(暮らす)ということ
地域住民の一員として、その中に居るということ
だけど現状は? 少くは病室が 傷つけられ、苦しんでも…
暮らしを支えるのは誰? 支えるということ… 護る 託される とか…
彼女・彼らが「居る(ある)」ということ

とあるエピソード

生後9ヶ月の女の子です
母の言葉

「次から次と顔も知らない(白衣の)人たちが…」
と、メールでSOS
「いよいよ泣いたけど、今日からは笑顔で…」
「みなさんに心配かけて、すいません…」

命のこと…




いよいよ、考えたいこと。
2011年11月17日

しょうごくん 初来訪記念 20110621

あたりまえですが、病院や無いです。望む暮らしがかけられてはいけません

重症・病弱者在宅支援プログラムヘルパー研修用

生活(暮ら)していくということとヘルパーの役割

2011年8月5日に公布された障害者基本法

「第3条(抜粋) 基本的人権を享有する個人としてその尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい生活を保障される権利を有すること」

「可能な限り、どこで誰と生活するかについての選択の機会が確保され、地域社会において他の人々と共生することを妨げられないこと」

重症・病弱者在宅支援プログラムヘルパー研修用

生活(暮ら)していくということとヘルパーの役割

2006年12月13日に国連総会で採択された『障害のある人の権利に関する条約』

第19条 自立した生活〔生活の自律〕及び地域社会へのインクルージョン
この条約の締約国は、障害のあるすべての人に対し、他の者と平等の選択の自由をもって地域社会で生活する平等の権利を認める。締約国は、障害のある人によるこの権利の完全な享有並びに地域社会への障害のある人の完全なインクルージョン及び参加を容易にするための効果的かつ適切な措置をとるものとし、特に次のことを確保する。

(a) 障害のある人が、他の者との平等を基礎として、居住地及びどこで誰と生活するかを選択する機会を有すること、並びに特定の生活様式で生活するよう義務づけられないこと。(b) 障害のある人が、地域社会における生活及びインクルージョンを支援するために並びに地域社会からの孤立及び隔離を防止するために必要な在宅サービス、居住サービスその他の地域社会支援サービス(パーソナル・アシスタンスを含む。)にアクセスすること。等

でっ!!! - : : :  

地域だとか、暮らしだとか、支援だとかって、...

まずは、この方へ :

ひろしさんと
言います



おもう下手はよく(暮らし)ということ

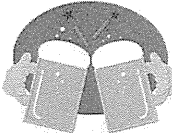
で、やっぱり、これ!! 

と、言いますか、普通に... :



あたりまえに暮らすって
居る(ある)ということ

彼から教えられたこと

オしを抜きに決めないで 

しっかり話しを聞いてくれ

彼は、決して、
誰かに話されて生きていく人ではない

解らないことを無いことにしない

今の暮らしが良い訳でもない

おもう下手は、オマ!!

重症・病弱者在宅支援プログラム ヘルパー研修用

生活(暮ら)していくということとヘルパーの役割

障害者権利条約は
障害者といわれる方々のみではなく
誰もが享受し得る条文であるということ

ヘルパーはご本人さん及びご家族と
最も距離が近く長時間共に在り得る支援者

時間こそが作れる関係性を大切に
支援者というよりも共存(共生)者として

で、もうひとり、アジトに暮らす りょうた さん

彼の暮らし、
というが、生き様も杜絶です...



誰が決める
どうして決める
どう暮らしていく
考えましよう

重症・病弱者在宅支援プログラム ヘルパー研修用

生活(暮ら)していくということとヘルパーの役割

人が生活し(生き)ていくということについて

障害児・者といわれる方々への施策(障害者福祉)の歴史
「収容保護」という考えの下、入所施設の建設、あるいは就学猶予
等が、

「真正自立」という考えの中、訓練・授産施設といったカタチが生ま
れてきたと言える。

1-マライゼーションって?

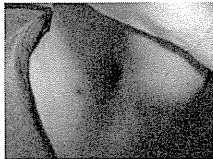
最も大切なことを考えてみましょう

彼も、世絶 + ステキな生き様。。



2010年に度重なる誤嚥性肺炎の後、気管切開(喉頭離断)後、住み慣れた場所での暮らしを、周辺みんなで支援し始め…たのもつかの間、2011年のお正月は病院暮らしT-T…。

改めての仕切り浴おし後、5月15日に心肺停止。だけれども、そこから復活、更に強固(気持ちだけは…)な支援プロジェクトによって、夏から1人暮らしにむけて、みんなでロイショ!



その際にも再三の夜間の呼吸停止(大袋袋ですが本当です)だとか、夜通しの手動人工呼吸介助etc.

そして2011年12月5日に新居に引越しまし、楽しい年末年始(特に周遊者が)を過ごしました。

暮らしということ、生きるということ。。

引越しのお祝い会



こんな暮らしを仲間と一緒にイメージしていくのが



引き寄せられる人々
とばかり



重症・病児在宅支援プログラム ヘルパー研修用
生活(暮らし)していくということとヘルパーの役割

私たちが地域で重症心身障害といわれる方々と暮らしや活動を共にしていく中で感じ得てきたことは

例えば就労だとか、物品を作り出す生産だとかとは違う、言語あるいは五感を持ってしてもコミュニケーションがとり難いとされる方々との相互(ご本人と支援者との)による「わかりあおうとする」関係性構築の過程において作られていく様々な場面や場所、更には新たなコミュニティをも形成していく「力」が彼女・彼らには有ること。

このことこそが
彼女・彼らの「社会的はたらき」である
このことが地域で生活(生きて・暮らし)していくということ

支援費制度が始まった後に

自らの暮らしぶりを示してくれた彼



彼らの生きざまだとか
存在の価値を明確に



重症・病児在宅支援プログラム ヘルパー研修用
生活(暮らし)していくということとヘルパーの役割

例えば、人工呼吸器を使用している重症児といわれる子どもについて、ヘルパーとしてどう関わっていくのかを考えてみると・・・

呼吸器をはじめ医療的ケアが常時必要

しかし、そのことによって、
ご本人が望む暮らしが届けられる
などということがあってはならない

医療的ケアの法制化と
一定の条件の下での関係性の中での対応

いざにしては大切なのは関係性

重症・病児在宅支援プログラム ヘルパー研修用
生活(暮らし)していくということとヘルパーの役割

「療の吸引」ひとつをとっても、特に重症児・重症心身障害等といわれる方々へのケアはあたりまえに一律・一様ではなく、その人にあった手技(関係性の中から掴み取られるケア)が必要であり、更には限定された人や(特定の)ケアのみによって、「その人(児)の望む暮らし」「望む活動」の実現は不可能であるということ。

全ての人が、固有の誰それという名前があるように、私たちが関わる全ての子ども(人)たちも「重症児の〇〇ちゃん」だとか、「呼吸器の△△ちゃん」ではなく、傍に居る人・子どもとして関わっていく(関係性を作っていく)という意識が重要である。

重症・病弱者在宅支援プログラム ヘルパー研修用

生活(暮ら)していくということとヘルパーの役割

このケースの際にも
決して医療機器(例えば人工呼吸器)に生かされている訳ではない

息をしているのは本人であり、
決して人工呼吸器が息をしている訳ではない

最も大切なことは...

